

令和8年度

佐賀県小・中学校学習状況調査 及び 全国学力・学習状況調査

－ 調査結果 と 指導改善のポイント －

中学校国語科

- 1 はじめに
- 2 調査結果の概要
- 3 成果が見られた設問
- 4 課題が見られた設問
 - ・ 誤答例と生徒のつまずき
 - ・ 指導改善のポイント
- 5 同一生徒の経年比較
- 6 おわりに

1 はじめに

佐賀県教育委員会では、児童生徒の学習状況を把握・分析し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、佐賀県小・中学校学習状況調査を行っています。

また、全国学力・学習状況調査の結果と一体的に分析することで、各学校における学力向上に向けた検証改善サイクルの確立につなげています。

令和8年度
学校における
学力向上の
検証改善サイクル

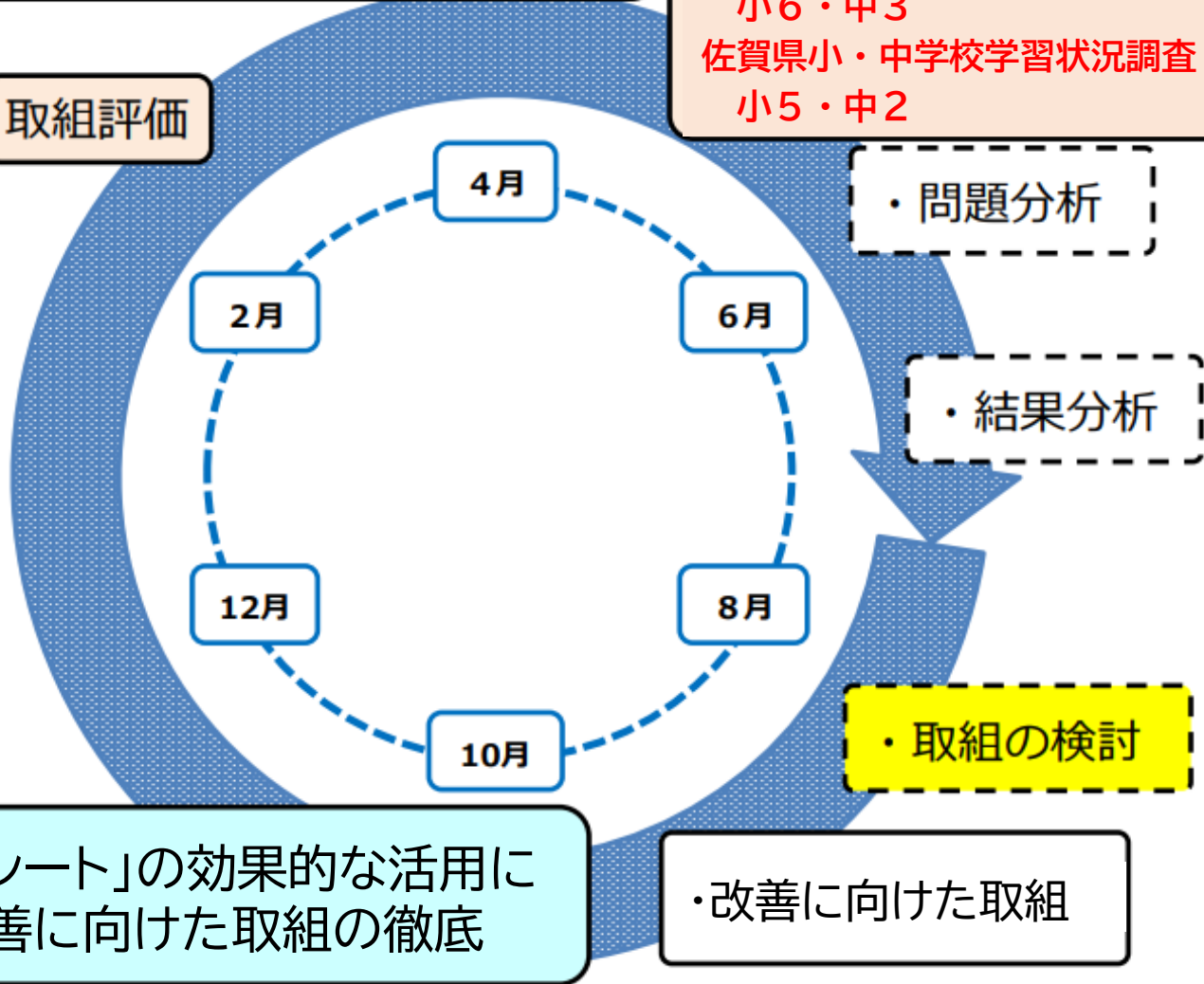
○1年間の大きな
サイクルの中で、
個々の取組に関
する小さな検証
改善を行う

検証改善サイクルを
確立・機能させるこ
とにより、児童生徒
の学力向上を図りま
しょう。

・課題解決に向けた取組の共通認識、
円滑な取組のスタート(評価シート)

【令和8年4月23日】
全国学力・学習状況調査
小6・中3
佐賀県小・中学校学習状況調査
小5・中2

取組評価



○「評価シート」の効果的な活用による改善に向けた取組の徹底

・改善に向けた取組

2 調査結果の概要

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《教科全体》

中2国語

年度	県平均正答率	目標値
R 8	58.2 %	59.2 %
R 7	61.0 %	61.4 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

－1.0

－0.4

※目標値・・・学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童生徒の割合

R8の県平均正答率は、目標値を1.0ポイント下回った。
また、R7と比べると、目標値との差が大きくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

中2国語

知識・技能

年度	県平均正答率	目標値
R 8	61.4 %	60.0 %
R 7	66.9 %	66.0 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

+1.4

+0.9

R8の県平均正答率は、目標値を1.4ポイント上回った。
さらに、R7と比べると、目標値との差が大きくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《事項別》

中2国語

事項	年度	県平均正答率	目標値
言葉の特徴や使い方に関する事項	R 8	64.5 %	63.1 %
	R 7	68.2 %	67.5 %
情報の扱い方に関する事項	R 8	59.1 %	55.0 %
	R 7	52.1 %	50.0 %
我が国の言語文化に関する事項	R 8	38.8 %	40.0 %
	R 7	71.5 %	70.0 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

+1.4

+0.7

+4.1

+2.1

-1.2

+1.5

R8の県平均正答率は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」で目標値を上回った。
しかし、「我が国の言語文化に関する事項」で課題が見られた。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

中2国語

思考・判断・表現

年度	県平均正答率	目標値
R 8	56.1 %	58.7 %
R 7	57.0 %	58.3 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

-2.6

-1.3

R8の県平均正答率は、目標値を2.6ポイント下回った。
また、R7と比べると、目標値との差が大きくなった。

佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《領域別》

中2国語

領域	年度	県平均正答率	目標値
話すこと・ 聞くこと	R 8	62.1 %	63.3 %
	R 7	72.7 %	68.3 %
書くこと	R 8	48.0 %	55.0 %
	R 7	49.0 %	53.3 %
読むこと	R 8	61.1 %	60.0 %
	R 7	57.1 %	58.3 %

目標値との差
(県平均正答率－目標値)

-1.2

+4.4

-7.0

-4.3

+1.1

-1.2

R8の県平均正答率は、「読むこと」で目標値を上回った。
しかし、「話すこと・聞くこと」「書くこと」で課題が見られた。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《教科全体》

中3国語

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R8	62 %	63.9 %
R7	53 %	54.3 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

-1.9

-1.3

※全国調査の教科全体の県平均正答率は、文部科学省から整数値で提供されています。

R8の県平均正答率は、全国平均正答率を1.9ポイント下回った。
また、R7と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

知識・技能

中3国語

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R 8	62.3 %	64.2 %
R 7	46.3 %	48.1 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

-1.9

-1.8

R8の県平均正答率は、全国平均正答率を1.9ポイント下回った。
また、R7と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《事項別》

中3国語

事項	年度	県平均正答率	全国平均正答率
言葉の特徴や使い方に関する事項	R 8	60.9 %	63.0 %
	R 7	46.3 %	48.1 %
情報の扱い方に関する事項	R 8	69.2 %	70.4 %
	R 7	該当する設問なし	
我が国の言語文化に関する事項	R 8	該当する設問なし	
	R 7	該当する設問なし	

目標値との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

-2.1

-1.8

-1.2

—

—

—

R8の県平均正答率は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」で全国平均正答率を下回った。また、R7と比べると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国平均正答率との差が大きくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

思考・判断・表現

中3国語

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R 8	61.6 %	63.7 %
R 7	53.7 %	55.3 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

-2.1

-1.6

R8の県平均正答率は、全国平均正答率を2.1 ポイント下回った。
また、R7と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《領域別》
中3国語

領域	年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
話すこと・ 聞くこと	R 8	62.8 %	63.9 %
	R 7	51.4 %	53.2 %
書くこと	R 8	64.5 %	67.4 %
	R 7	51.6 %	52.8 %
読むこと	R 8	57.6 %	59.7 %
	R 7	60.1 %	62.3 %

全国平均正答率
との差
(県平均正答率
－全国平均正答率)

－1.1

－1.8

－2.9

－1.2

－2.1

－2.2

R8の県平均正答率は、全ての領域で全国平均正答率を下回った。
しかし、R7と比べると、「話すこと・聞くこと」「読むこと」で改善が見られた。

第2学年では、令和7年度の県調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 観点別の県平均正答率「知識・技能」
- 事項別の県平均正答率「言葉の特徴や使い方に関する事項」
「情報の扱い方に関する事項」
- 領域別の県平均正答率「読むこと」

第3学年では、令和7年度の全国調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 領域別の県平均正答率「話すこと・聞くこと」「読むこと」

3 成果が見られた設問

※ 目標値や全国平均正答率を上回った設問や、令和7年度からの伸びが大きい設問を取り上げています。

◇文章の内容について叙述を基に捉えている。（中2）

◇目的に応じて必要な情報に着目して、内容を解釈している。（中2）

◇表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる。（中3）

4 課題が見られた設問

※ 目標値や全国平均正答率との差が大きかった設問や、これまで県の課題とされ、今年度も指導改善が必要と考えられる設問を取り上げています。

- ◆読み手の立場に立って、文章を整えている。（中2）
- ◆自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。（中2）
- ◆表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる。（中3）

指導改善のポイント

読み手の立場に立って、文章を整えることができるようにするために、

- 報告する文章について、文脈上の語句の意味を確認するよう促し、「その表現で伝わるのか」と問い掛け、読み手に正しく内容を伝えることができるか、読み手の立場から検討する学習活動を設定する。

推敲案①

インフラツアーを行うと、観光客がインフラ施設の周辺の店にも訪れるので、地域の活性化につながります。

推敲案②

インフラツアーは、ダムや橋などのインフラ施設で行われるので、地域の活性化につながります。



観光客が店を訪れることを記述してあるので、推敲案①のほうが、地域の経済との関連について読み手に分かりやすく伝わるな。

指導改善のポイント

自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるようにするために、

- レポートやリーフレットを書く言語活動を設定する。その中で、読み手に伝えたい自分の考えを明らかにした上で、根拠をどのように文章中に記述すると明確になるかを吟味する学習活動を設定する。

(例) 根拠が明確に記述された文章と、根拠が明確に記述されていない文章を比較し、どちらのほうが考えが伝わるかを検討する。

① 根拠が明確に記述された文章

ちらしには、日時や場所について、文章ではなく「日時：4月25日（土）午後3時～午後5時」のように、箇条書きに直すとよいと思います。文章で書くより、情報が伝わりやすくなります。

② 根拠が明確に記述されていない文章

ちらしで、「ありがとう」と「うれしい」以外にもたくさんの手話を紹介するとよいと思います。手話をたくさん知ることができると、勉強になると思います。



①のほうが、説得力があるな。根拠がはっきりしていて、意見としっかり結び付いているからだな。

指導改善のポイント

表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるようにするために、

- 随筆を創作するなど、感じたことや想像したことを書く活動を設定し、自分の考えが伝わる文章となるよう、表現の効果を考えて描写するように指導する。その上で、文章と表現の意図を共有して検討する場面を提供する。

〔文章と表現の意図を共有して検討する場面〕



随筆の中で、いつも持ち歩いているスケッチブックを、読む人に印象付けたいのだけど、どうすればいいかな。

スケッチブックを、「友達」とか「相棒」とか、擬人法で表現すると印象付けることができるんじゃないかな。



「相棒」のほうが、自分を支えてくれる感じが強くていいね。

5 同一生徒の経年比較

5 同一（児童/生徒）の経年比較

26

〈 県調査結果と全国調査結果との比較 〉

	小学校			中学校		
学年	第1学年～ 第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
県調査 (4月実施)	第4学年までの 学習における 「強み」「弱み」 の把握	国語 算数		第1学年までの 学習における 「強み」「弱み」 の把握	国語 数学 英語	
全国調査 (4月実施)		課題が解決したか、 確認と振り返り	国語 算数 (理科)		課題が解決したか、 確認と振り返り	国語 数学 (理科・英語)

() 内教科…3年に1回実施

各学校において、経年比較における分析も行ってみましょう。

5 同一生徒の経年比較

27

〈R 8 全国調査結果とR 7 県調査結果との比較〉

観点	事項及び領域	R 8 全国調査 対全国比※ 1	R 7 県調査 対全国比※ 2	R 8 - R 7
知識・技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	0.97	0.98	-0.01
	(2) 情報の扱い方に関する事項	0.98	0.96	+0.02
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	該当する 設問なし	1.02	——
思考・判断・表現	A 話すこと・聞くこと	0.98	0.97	+0.01
	B 書くこと	0.96	0.83	+0.13
	C 読むこと	0.96	0.94	+0.02

※ 1 全国調査対全国比 … 県平均正答率÷全国平均正答率

※ 2 県調査対全国比 … 県平均正答率÷調査に参加している児童生徒（各教科約10万人）の平均正答率

参考として、対全国比で比べると、「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」「読むこと」で改善が見られた。

6 おわりに

以下の点において授業改善を図りましょう。

- ◆単元で取り上げる指導事項を確認し、単元の目標を設定する。その上で、単元の目標を実現するために適切な言語活動を設定する。
- ◆話や文章を正確に理解することにつなげるために、話や文章に含まれている情報を取り出して整理したりその関係を捉えたりする活動を設定する。

佐賀県
教育センター

サイト内検索

検索ワードを入力してください

各種研修

受講のための情報

受講者へのお願い

オンデマンド受講者専用ページ

駐車場の利用について

申込等各種手続

授業に役立つコンテンツ

授業に役立つ実践研究

学習評価の進め方

SAGAせ～る指導案

学習状況調査

授業に役立つ実践研究



プロジェクト研究

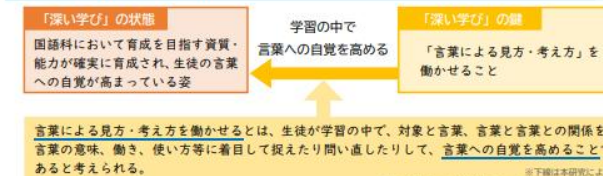
	校種	教科・領域	研究主題：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 【今年度の研究について】
	小学校	各教科	【小学校国語科】 授業改善に役立つコンテンツ NEW
			【小学校算数科】 授業改善に役立つコンテンツ NEW
	中学校	各教科	【中学校国語科】 授業改善に役立つコンテンツ NEW
			【中学校数学科】 授業改善に役立つコンテンツ NEW
			【中学校英語科】 授業改善に役立つコンテンツ NEW
個別実践研究（教育センター所員がチームを組んで取り組んだ研究）			
	小学校	各教科	児童生徒が、各教科における資質・能力を身に付けるための授業づくり～指導と評価の一体化を図る授業改善に向けて～ NEW 図画工作科、外国語科
	中学校		児童生徒が、各教科における資質・能力を身に付けるための授業づくり～指導と評価の一体化を図る授業改善に向けて～ NEW 理科、音楽科、美術科

○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善Vol. 2 —「言葉による見方・考え方」を鍵に、「深い学び」につなげる授業改善—



中学校 国語科
中学校国語科における
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 Vol. 2
—「言葉による見方・考え方」を鍵に、「深い学び」につなげる授業改善—

1 「深い学び」の実現のために



下線部に注目すると、生徒が「言葉による見方・考え方を働かせる」ことは、「言葉への自覚を高めること」と捉えることができそうです。
国語科は、様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するか、という言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としています。そのため、生徒が言葉に着目し、言葉に対して自覚的になるようにすることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながります。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に役立つコンテンツ、指導と評価の一体化を図るためのコンテンツなど、今すぐ使えるコンテンツが満載です。

佐賀県
教育センター

サイト内検索

検索ワードを入力してください



各種研修



受講のための情報



受講者へのお願い

オンデマンド受講者専用ページ

駐車場の利用について

申込等各種手続

授業に役立つコンテンツ



授業に役立つ実践研究



学習評価の進め方

SAGAせ～る指導案

学習状況調査

「さがんば」(佐賀県学習問題)



これまでの佐賀県小・中学校学習状況調査を基に作成されたC B T問題です。
児童生徒が、学習eポータルにサインインして、MEXCBT（メクビット）を使い
上で学習することができます。

I 教師用マニュアル (PowerPoint版 / PDF版)

II 児童生徒用マニュアル (PowerPoint版 / PDF版)

III 問題一覧 ※令和6年3月15日更新

小学校
国語小学校
社会小学校
算数小学校
理科中学校
国語中学校
社会中学校
数学中学校
理科中学校
英語

令和5、6年度作成

「さがんば」(佐賀県学習問題) 問題一覧

(佐賀県小・中学校学習状況調査を基にしたC B T問題)

中学校国語

※ 令和4年度以前に作成した佐賀県小・中学校学習状況調査の問題を基に作成しています。
 ※ 評価の観点にある知技は「知識・技能」、思判表は「思考・判断・表現」を表しています。

さがんば No.	タイトル名 ※タイトル名をクリックすると、 問題プレビューが開きます。	校 種 年 次	単元/領域	出題の趣旨	学習指導要領の 内容	評価の 観点	問題形式	チェック
						知 技	思 判 表	
01	「さがんば」(佐賀県学習問題) 国語 中1 話す・聞く01	中1	話すこと・聞くこと	日常生活の中から話題を決める	話すこと・聞くことア	○	○	
				事実と意見との関係に注意して、話の構成を考える	話すこと・聞くことイ	○	○	
				中心的な部分と付加的な部分との関係に注意して、話すためのメモの構成を考える	話すこと・聞くことロ	○	○	
				相手に分かりやすく伝えるように表現を工夫する	話すこと・聞くことウ	○	○	
				目的や場面に応じて質問し、話の内容を捉える	話すこと・聞くことエ	○	○	
02	「さがんば」(佐賀県学習問題) 国語 中1 言葉の使い方	中1	言葉の特徴	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	言葉の特徴や使い方に関する事項ウ	○	○	



これまでの佐賀県小・中学校学習状況調査問題を基に作成されたC B T問題です。
学習eポータルにサインインして、MEXCBT（メクビット）を使い、オンライン上で学習することができます。